

韓国におけるプロゴルファーの強化・育成に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5010A305-1 井上 透

研究指導教員：平田 竹男教授

本研究は、近年韓国人プロゴルファーが世界で活躍している中で、その強さの要因を明らかにしたものである。

第1章では、研究背景と研究目的を述べた。近年、世界において韓国人プロゴルファーの活躍が目立っている。1998年の全米プロゴルフ選手権で、パク・セリが韓国人としてメジャー初優勝して以来、女子プロでは6人、男子プロでは1人が優勝している。また、日本のJGTO・JLPGAツアーやアメリカのUSPGAツアーにおいても、韓国人シード選手数が増加している。さらに、ジュニア及びアマチュア界でも韓国人ゴルファーは好成績を残している。しかしながら、韓国のジュニアゴルフ人口は日本と比較して少なく、韓国のゴルフ環境が整備されているわけでもない。そこで本研究では、韓国人プロゴルファーが強くなった理由を明らかにすることを目的とした。

第2章は研究手法を記述した。まず、韓国の現地調査とインタビュー調査を行った。現地調査では、練習場やショートコース、民間の運営するゴルフアカデミーなどジュニアゴルファーの練習環境を調査した。インタビュー調査では、選手やコーチ、協会の関係者らに話を聞いた。また、日本と韓国のプロゴルファーにアンケート調査

を実施し、ゴルフに対する意識や練習時間を調査項目とした。

第3章では、韓国現地調査とインタビュー調査の結果を整理した。韓国の練習環境は、親の金銭的及び送迎などによる時間的負担が非常に大きい事がわかった。また、ほとんどのジュニアゴルファーが学校には通わずに練習していることが明らかになった。さらに、韓国の指導方法は強制的にやらせるスパルタ式が一般的であることがわかった。そして、韓国中高等学校ゴルフ連盟はジュニアゴルファーのスコアデータをホームページ上で公開することで、選手や親またはコーチが弱点を把握したうえで練習できる情報を提供していることが明らかになった。

第4章では、日韓プロゴルファーに対するアンケート調査の結果を整理した。その結果、ジュニア時代において韓国人プロゴルファーの方が日本人プロゴルファーよりも練習量やラウンド数が多いことが明らかになった。また、韓国では幼少期からプロゴルファーの指導を受けていた選手が多いことがわかった。

第5章では、これまでの研究結果を基に、韓国人プロゴルファーが強くなった理由を考察するとともに、それを踏まえて日本ゴルフ界が取り組む

べきテーマを考察した。韓国のゴルフ協会は「韓国ツアーの2年間のシード権」「300日の強化合宿の費用負担」、そしてアジア競技大会の金メダルに与えられる「兵役免除」を組み合わせることで、試合に出場する動機と毎日の練習のモチベーションを上げるための仕組みを作っている。また、中高高等学校ゴルフ連盟は、練習課題を客観的に見つけられるデータの提供を行っている。この2つが軸となり、韓国ジュニアゴルファーのレベルを押し上げ選手の育成および強化に繋がっているという考えに至った。

また、韓国ではゴルフ場や練習場の料金がいために、個人ではゴルフ環境を整えることが難しい。そのため、ほとんどのジュニアゴルファーが民間の運営するゴルフアカデミーに所属している。その結果、幼少期からプロゴルファーの指導を受けることができる。さらに、幼少期から指導は厳しく、毎日のように多くの練習を行うことがわかった。これが韓国人プロゴルファーの世界的活躍の原動力になっていると考えられる。

加えて、韓国では親が子供のゴルフ育成に対して金銭的だけでなく、時間的な負担を負っていることがわかった。韓国の現地調査の結果、多くの親は朝から晩まで練習する子供の送迎をしていた。そして、多くの親が子供に付きっきりで練習のサポートをしたり、近くで待機したりしていた。また、ゴルフ環境の良いオーストラリアやニュージーランドといった国に家

族ごと移住するケースも多くみられる。このような指導者や親のサポートが韓国人ゴルファーの活躍に繋がっているという考えに至った。

これらを踏まえて、日本ゴルフ界が取り組むべき強化策は4つ考えられる。

1つ目は、ナショナルチームを中心とした強化体制の整備である。韓国では、ナショナルチームに入ることによって多くの優遇を受けられる。それが選手のモチベーションを上げる要因となり、結果的に強化に繋がっている。したがって、日本でも独自の優遇案を打ちだしナショナルチームの強化を図ることが重要だと考えられる。

2つ目は、スコア管理システムの構築である。これにより練習効率を上げることが可能になり、また、他の選手と比較することによって競争意識を高めることができるという考えに至った。

そして3つ目は、ゴルフ環境の整備である。首都圏では、ゴルフ場や練習場がジュニアゴルファーにとって練習しやすい場になるよう環境づくりを行う必要がある。また地方では、ジュニアゴルフ人口の増加が必要であると考えられる。

4つ目は、幼少期での適切な練習量の確保と専門的なコーチによる指導である。早期での正しいスイング作りはその後のゴルフに有益であるといえる。

ゴルフ界の発展のために、本研究が少しでも貢献できれば幸いである。